



# 駒岡小学校だより

6月号

## 変わるもの、変わらないもの

副校長 伊藤 みつみ

駒岡小学校に着任して2か月が過ぎました。この10年間余りで駒岡小学校は、どんな点が変わったでしょうか。また、変わらず続いているところは、どんな点でしょうか。

さて、変わったところは何でしょう。まず、児童数が大きく増えました。平成20年度の児童数は592人、3年生だけが4クラスでした。今は742人、1年生から3年生まで4クラスで4年から6年生まで3クラスです。10年間で150人も増えたことが分かります。それに伴って校舎の様子も変わりました。2階の1年3組と4組、3階の3年3組と4組の教室は、10年前はホールとして使われていました。

次に、学校の周りの様子も変わりました。10年前は、学校の東側に地域からお借りした農園があり、各学年が農作物を育てていました。今は、住宅地になっています。

では、変わらなかったところは何でしょう。まず、全校遠足のような異学年の豊かな交流です。10年以上前から、縦割りで三ツ池公園に遠足を続けています。今年も5月23日に、駒っ子なかよし遠足が行われました。あいにくの雨で、お弁当は教室で食べることになりましたが、保護者ボランティアの皆様の応援もあり、一日の活動の中で、子どもたちの輝きをたくさん見つけることができました。出発の時、初めての体験で不安そうな1年生に、「だいじょうぶ？」と声をかけ、手をつないであげる上級生。鬼ごっこやかくれんぼを笑顔いっぱいに楽しんで、上級生を追いかけている1年生。学校に帰ってきて、その交流は続き、異学年同士お弁当を食べたり、室内ゲームを楽しんだりできました。どの子も、普段の学習の時とは少し違う顔を見せてくれていました。



地域の方の学校への温かな応援も変わらない点です。5年生の田植えが、25日（金）に行われ、後援会の小山孝さん、小山朝雄さん、青木昭夫さん、樺沢勝利さんに教えていただきました。小山孝さんが、「日本人は、お米を主食にしてきました。米作りは120日間で八十八の手間をかけて、休みなく見守らなければ収穫できないのです。鶴見区の中で駒岡小学校は、そういう体験ができる数少ない学校です。」と、お話しされました。五年生の子ども達は小山さんのお話を

真剣なまなざしで聞き入っていました。そして、泥の感触に歓声を上げ、小山さんの教え通り、「深くなく2cmぐらいに浅く真っ直ぐ」を意識しながら、田植えを行いました。小山さんに農業体験の始まりを伺うと、実は初代の小泉校長先生の頃から、46年間も続いているとのことでした。

保護者や地域、後援会の皆様の温かな応援を創立当時からいただき、異学年交流や農業体験など子ども達の心を育てる教育が変わらず続けられていることに感謝いたします。これからも、ご協力をよろしくお願いいたします。